

今日の眼疾患治療指針 第3版

大路正人, 後藤 浩, 山田昌和, 野田 徹 編 西田保裕, 根岸一乃, 相原 一 編集協力

眼科臨床医が待ちに待った『今日の眼疾患治療指針』の第3版が世に送り出された。「最新の眼科診療情報を盛り込んだ実用書」という当初のコンセプトを受け継ぐ中、編集に数々の工夫を凝らしたニュー・バージョンが誕生したのである。

本書の源流は1959年に刊行された『今日の治療指針』にある。同書は、発刊から既に60年近くを経たものの、全科の疾患を網羅し、幅広い対応が求められる日常診療のガイド役として今も好評を博している医学書院の代表的書籍である。ただその一方で、個々の専門領域におけるより詳細な治療指針のニーズも高まり、2000年には田野保雄先生（阪大）、樋田哲男先生（杏林大）の編集によって記念すべき本書の初版が刊行されている。その後の2007年には、現在の編集陣（大路正人、後藤浩、山田昌和、野田徹の各先生）が中心となって第2版が上梓されたが、既に10年が経過し、眼科医療の進歩の中でその価値が薄れつつあるのを残念に思っていたところであった。

送られてきた今回のバージョンを読んでみてその出来栄えに感服した。編集陣の並々ならぬ意気込みが伝わってくる企画内容である。

第一の特色は、より多くのカラー臨床写真や画像情報が採り入れられ、程よい文字量とのバランスのもと、格段に読みやすくなっている点にある。「指針」という言葉から受ける辞書的なイメージとは異なり、これはまさにコンパクトな教科書であり、読み物としても十分に成り立っている。初版で示された「羊の皮を

着たオオカミ」という理念がさらにブラッシュアップされたと言ってよいであろう。

第二の特色は、専門医ならば必ず知っておいて欲しい最新情報が精選、網羅されている点にある。編集陣によって絞り込まれた、主要疾患（病態を含む）、検査、治療に関する全632項目が秩序立ったフォーマットの中でわかりやすく解説されている。執筆陣は各専門分野のオピニオンリーダーで構成されており、「今日の」というフレーズにふさわしい陣容となっている。専門医としての知識整理はもちろんのこと、専門医試験への準備にも利用が可能である。

第三の特色は、現在の眼科診療を多面的に眺めることができる点にある。基軸となる主要疾患の解説を本書の縦糸とするならば、冒頭にある「検査総論」あるいは「治療総論」はそれらを結ぶ横糸とも言えるものであり、診療の体系とその進歩をより有機的に理解できる仕組みとなっている。

目にも鮮やかな黄色の表紙、ビジュアルなデザインとA5判のコンパクトさが「機動力のある有能なアシスタント」の印象を与えている。『Yellow Wolf』とでも名付けて、ベッドサイドに必ず備えておきたい一冊である。

愛媛大学長
大橋裕一

A5・頁912 2016年10月
定価：本体24,000円＋税
[ISBN978-4-260-02479-2] 医学書院刊